



# ベビースマイル 家族交流会2025

すまいる+ぷらす

11月22日(土)13:00~

11月23日(日) 9:30~

# 家族交流会は、特別養子縁組家族が、安心して語り合い、支え合う場を作る

## ▶ ~繋がる場~

同じ経験を持つ家族として、繋がりを育み、支え合える仲間として、  
共に子どもの成長を支える

## ▶ ~情報交換・学びの場~

日々の悩みや喜びを分かち合い、経験や学びの情報をこれからの養育や、  
子どもとの関わりに活かす

## ▶ ~子どものコミュニケーション基盤づくりの場~

子どもに互いに支え合える仲間を作れる場として、  
将来のアイデンティティ形成の助けとする

# 家族交流会日程表（概要）

## ▶ 11月22日（土）

- ▶ (注意) 受付前に昼食は済ませてください
- ▶ 12時：受付、写真撮影、お譲りコーナー開始
- ▶ 13時～17時：家族交流会（1日目）
  - ▶ テーマ：近い地域別、近い年齢別
  - ▶ 研修：真実告知、オリジナル絵本紹介
  - ▶ 集合写真撮影
- ▶ 17時～18時：食堂にて夕食
- ▶ 18時～21時：入浴時間
- ▶ 19時～21時：自由交流、語り時間
- ▶ 22時：完全消灯時間

## ▶ 11月23日（日）

- ▶ 07時～09時：食堂にて朝食
- ▶ 09時：受付
- ▶ 09時30分～12時：家族交流会（2日目）
  - ▶ テーマ：アンケートからのテーマ別
  - ▶ 集合写真撮影
- ▶ 12時：現地解散

# お知らせと注意事項

- ▶ 各部屋の利用について説明(外に行っても良いがあまり広域ではない方が望ましい)
- ▶ 写真撮影について(購入方法)→カメラマンが入ります。
- ▶ 個人情報管理の話 (小室からアナウンス)
- ▶ 地域ごとに分かれているので、基本的にはこのまま交流を開始します。
- ▶ 地域交流の後、おおよそ15時から年齢別に分かれて交流します。
- ▶ 昼寝部屋、室内遊びの説明(紙芝居、絵本、お絵描きコーナー等)
- ▶ 今年初参加の人立って貢って簡単に紹介
- ▶ 参加費の振込について
- ▶ 宿泊家族の説明
- ▶ ベビースマイル来年の活動計画について(テーマごとに勉強会を開催予定)
- ▶ 「チームレインボー」紹介

※仲良くなった家族同士で外遊び等、基本自由行動です。

今回、実行委員会の皆さんの大なる協力のおかげで、無事に開催することができました！！！

# ゲスト&ボランティアスタッフの紹介

- ▶ ベビースマイル運営責任者
- ▶ 千葉市東部児童相談所
- ▶ 千葉市西部児童相談所
- ▶ 千葉市こども未来局 こども家庭支援課
- ▶ 里親支援機関「NPO法人 キーアセット」
- ▶ 里親支援機関「NPO法人 キーアセット」
- ▶ ベビースマイル元職員
- ▶ ボランティアスタッフ
- ▶ カメラマン「Our photo」

# 「〇〇〇 (子の名前) が主役の制度」

- ▶ 「真実告知」って言うけれど・・・何を伝えるの？

⇒縁組された当事者は、・・・

10年後、18年後、「自分の人生をみつめる時が来ます」！！！

その時、

“自分の存在”を肯定して、自分のことが大好きで居られるように・・・

「産んでくれた人がいる」から〇〇〇が居て、

「産んでくれた人が〇〇〇の幸せを心から願った」

「〇〇〇の未来を、私たち（育ての親）が引き継いで、

**誰もがあなたを一番に想って繋がって、家族の物語がスタートしたんだよ**

「家族の“色”と一緒に彩っていこうね」

と、伝え続けることです。

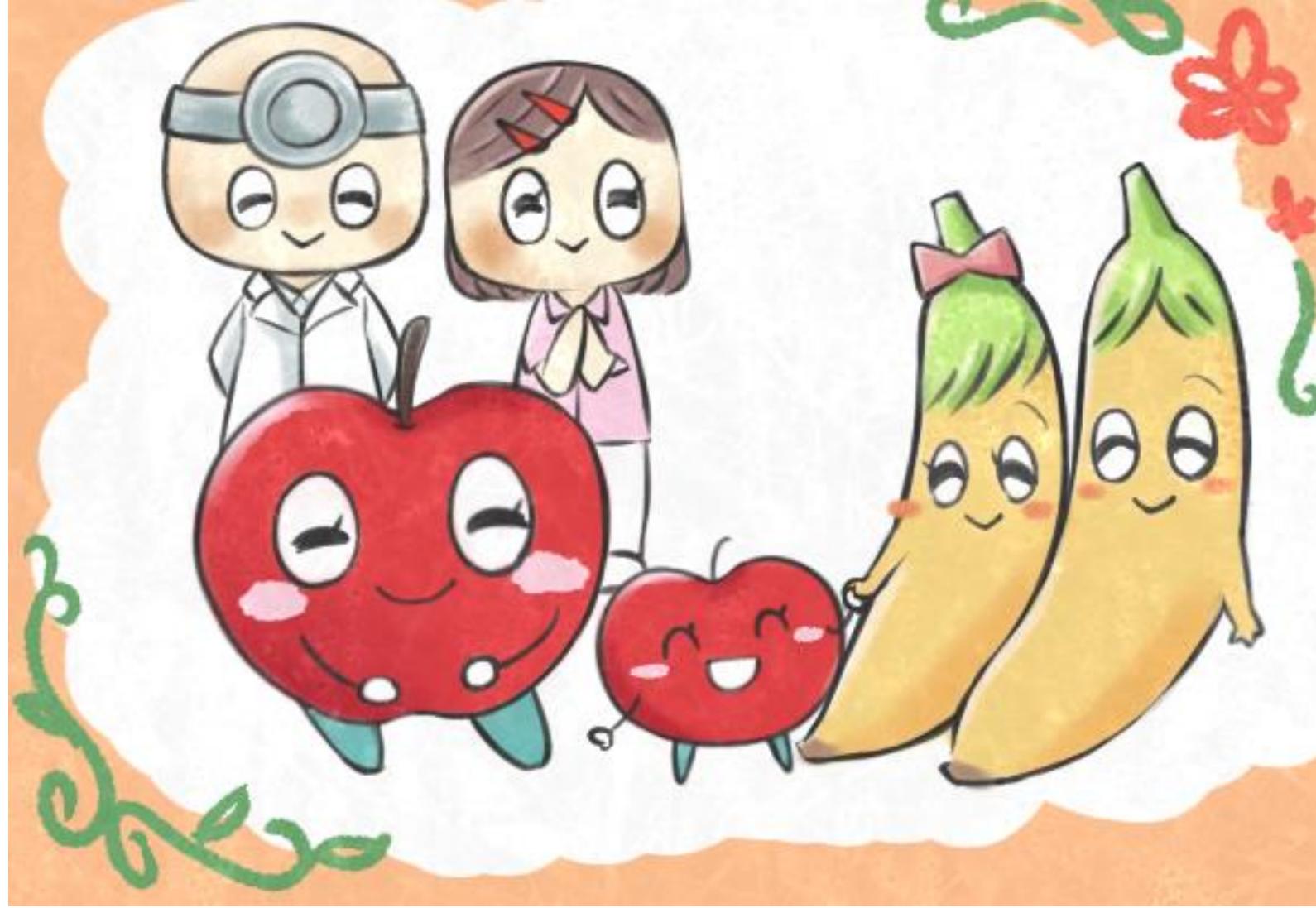
# 真実告知 個々に合わせた伝え方が大切！

※個人差はいつもある

- ▶ 伝えるのは一回じゃない、段階がある
- ▶ こどもの発達に合わせた伝え方をする(個人差、環境、年齢)
- ▶ 0歳~2歳未満(生活の言葉かけの中で伝える、+時々絵本)
- ▶ 2歳~3歳、4歳(絵本を活用、読み聞かせ、“オリジナルヒストリー”の推奨)
- ▶ 4、5歳(その児の個性、特性、発達を考慮しながら、社会性に合った伝え方)
- ▶ 6歳～(小学生以降の生活環境の変化と思考の発達)
- ▶ オリジナル絵本のブラッシュアップ(本人と一緒に改めて作成)
- ▶ 「児(個)を見る」「個人(個性)を認める」「子を見守る」が大前提
- ▶ その他、個人的な相談にいつも応じますので、ご相談ください

# 絵本製作の参考例

- ▶ ベビースマイルオリジナルの絵本「まるちゃん手をつなごう」
- ▶ 「特別養子縁組制度」を理解するための内容
- ▶ 幼少期のこどもは「物にも命があると思っている」
- ▶ 「制度の話」「自分のストーリー」の2本立てが分かり易い



まるちゃん、  
手をつなごう

これは、りんごのまるちゃんが、みんなと手をつないで歩いていくおはなしです。  
バナナのバナールとバナティは、おたがいのことがとても大好きです。

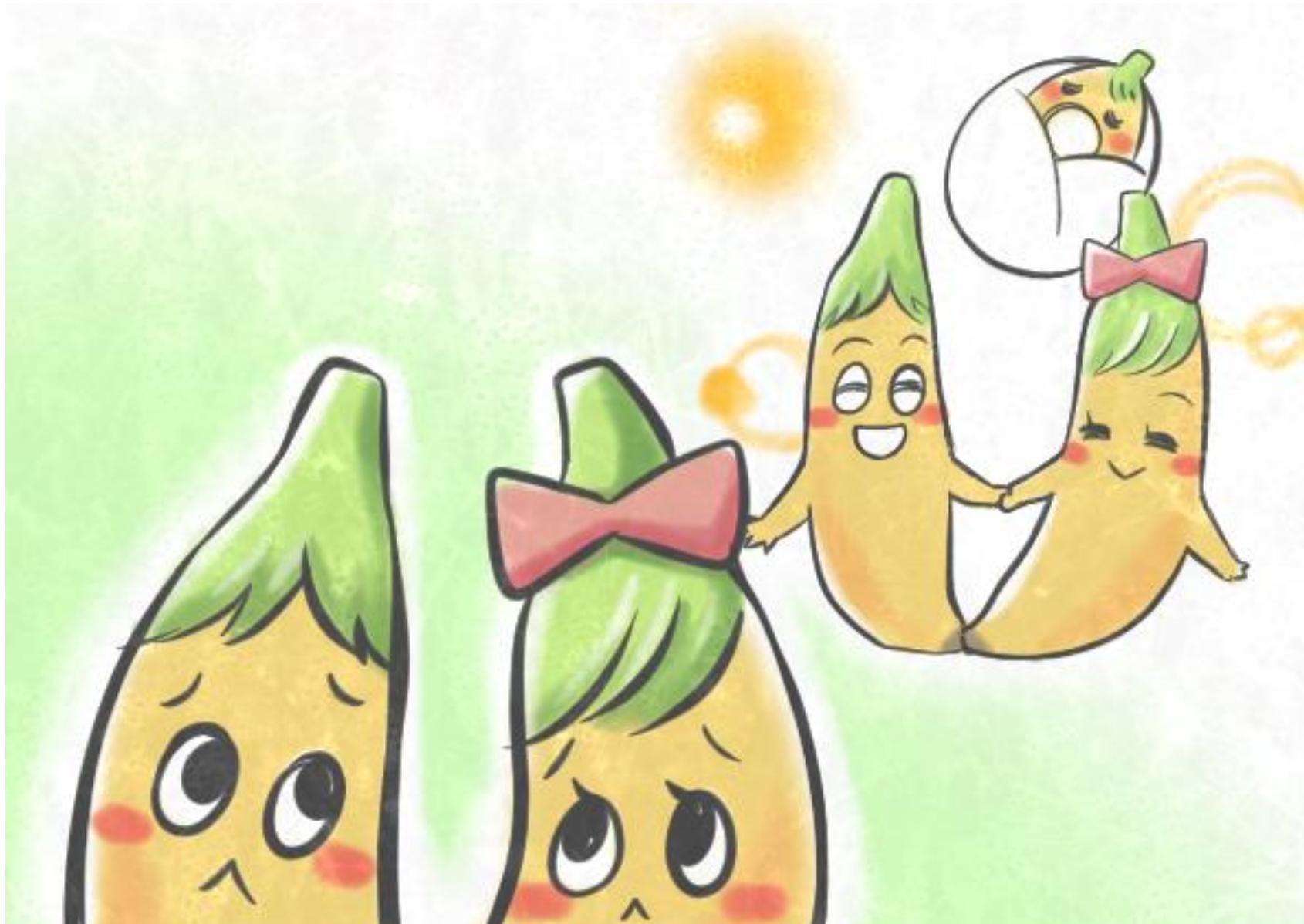




だいだい大好きな二人は結婚しました。

結婚したバナールとバナティはとても仲良し。  
毎日、しあわせに暮らしていました。  
そして、いつか、二人の赤ちゃんが欲しいと思つていました。

春、夏、秋、冬・・・一年、二年・・・  
ずーっと赤ちゃんを待ち望んでいたのですが・・・  
なかなか赤ちゃんはやつてしまません。



バナールとバナティは、  
町の病院に相談してみることにしました。

赤ちゃん、来るかなあ



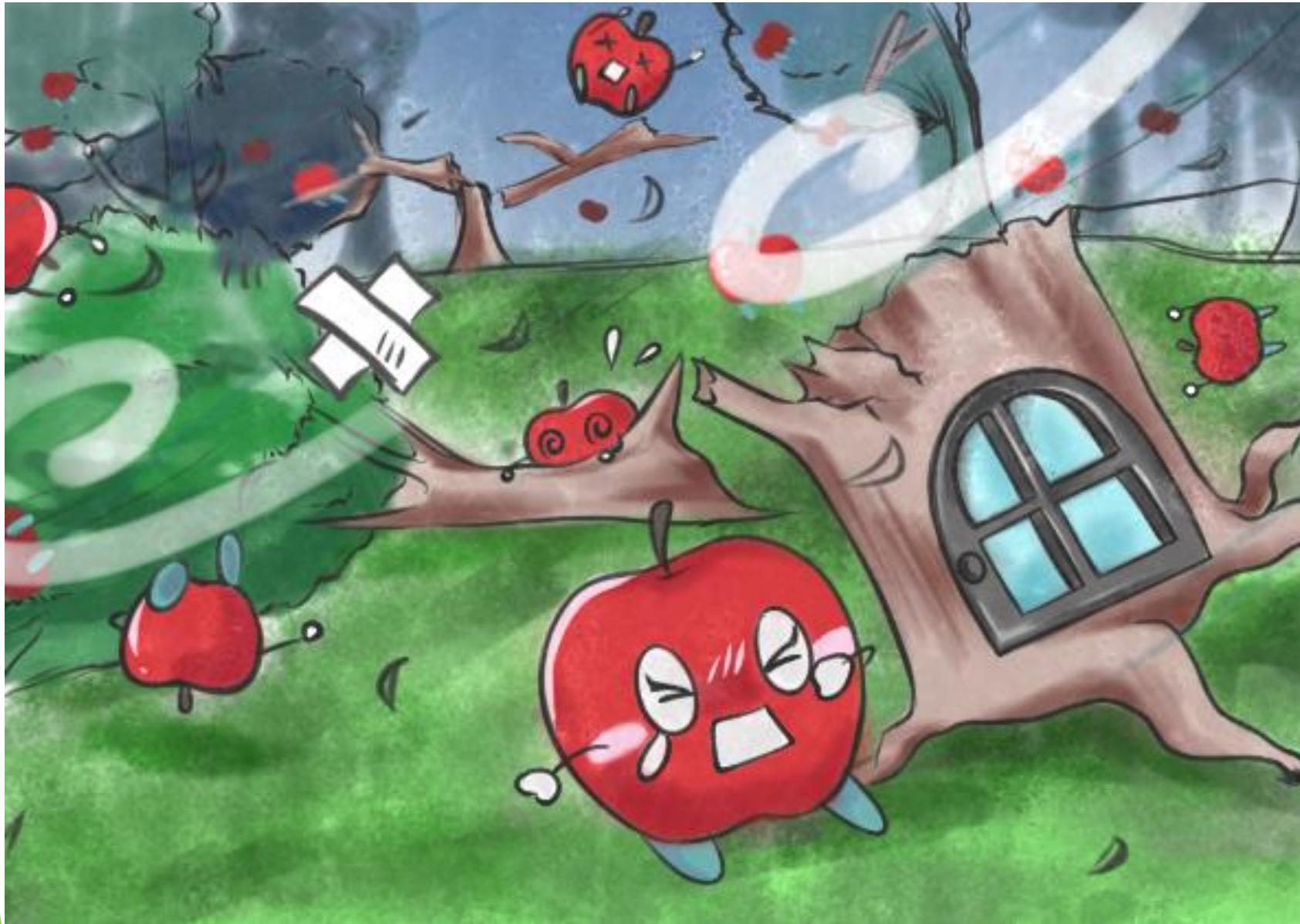


お医者さんは、バナールとバナティの話を、  
とても親切に聞いてくれました。

「赤ちゃんを育てる方法はいろいろありますよ。  
一緒に考えていきましょう！」

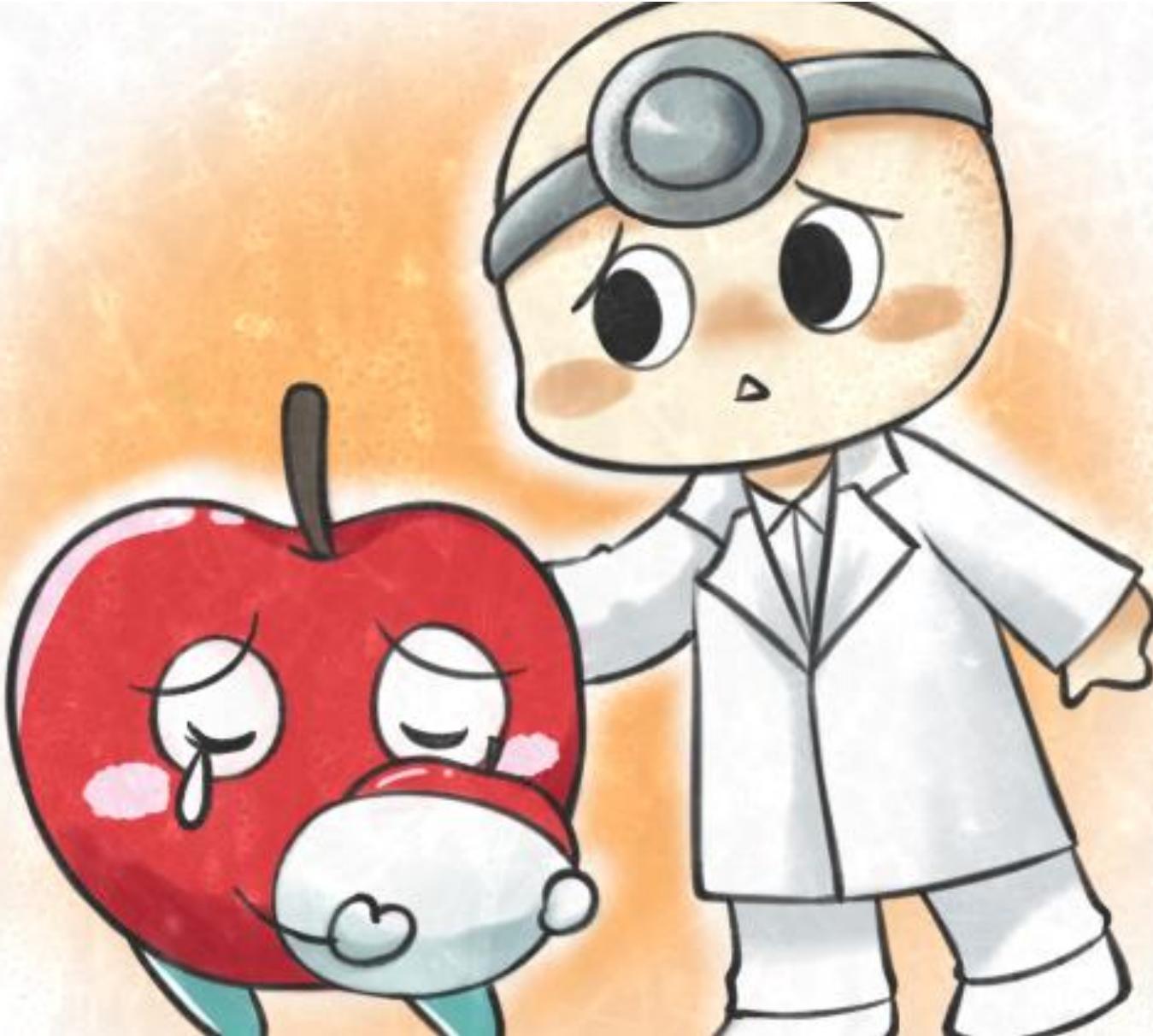
ここは、りんご王国です。  
ある日、  
とても大きな嵐がりんご王国を襲いました。

みんな、住む場所がなくなつてしまつたのです。  
木がたおれ、おうちがどばされてしまつました。



一緒に考えましょう。」

「赤ちゃんとコソコソがどうしたら一番良いか、



「私の代わりに、この子を育ててくれる方法はありませんか？」

りんごのリンリンは、赤ちゃんを産んだばかり。  
嵐でおうちがなくなってしまつたリンリン、  
小さい赤ちゃんを育てる場所がありません・・・  
リンリンは、赤ちゃんを産んだ病院のお医者さんに  
相談しました。

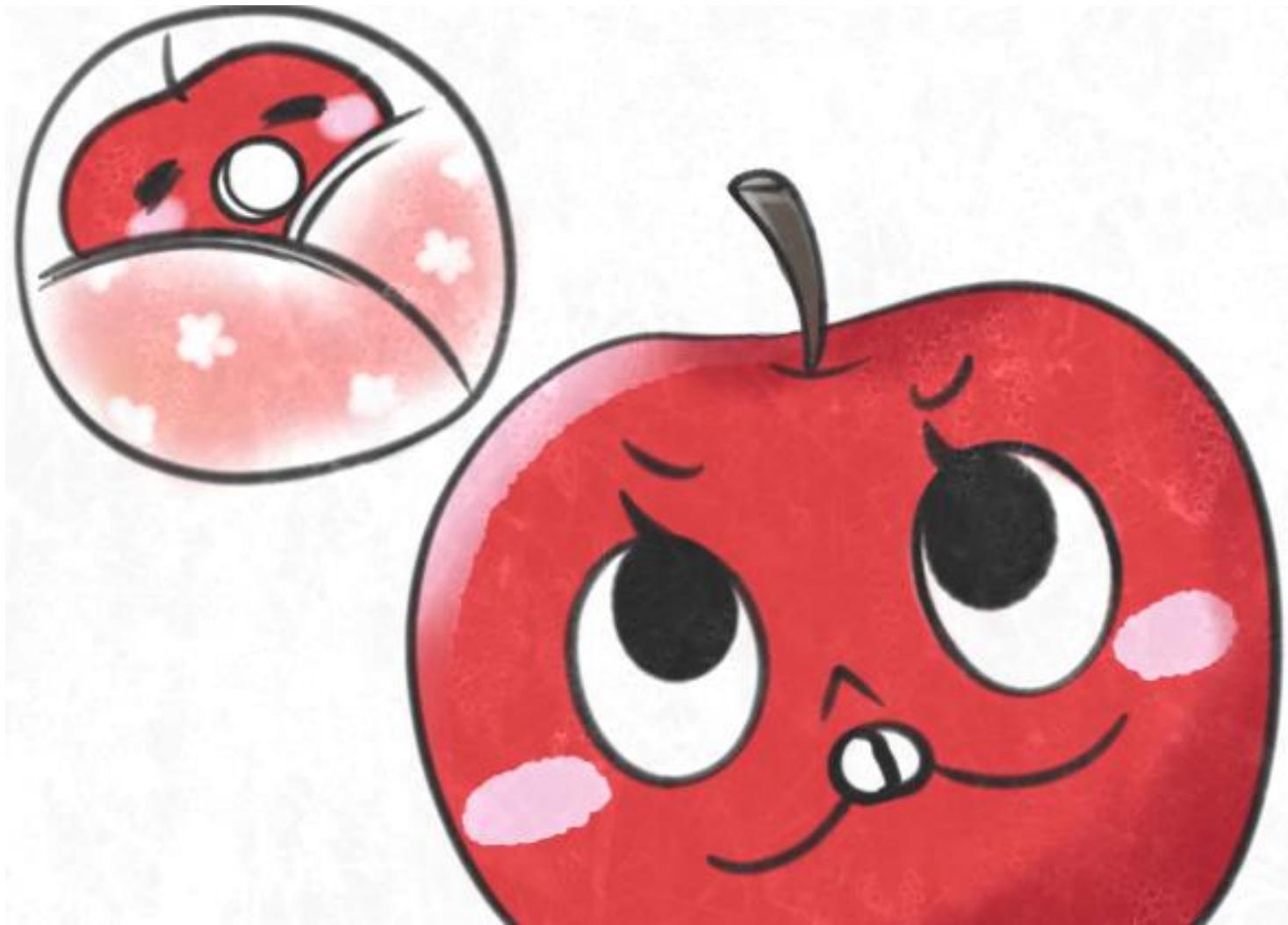
りんごのリンリンは、赤ちゃんを産んだばかり。  
嵐でおうちがなくなつてしまつたリンリン、  
小さい赤ちゃんを育てる場所がありません・・・  
リンリンは、赤ちゃんを産んだ病院のお医者さんに  
相談しました。

そして、リンリンは考えました。

いつしようけんめい、  
いつしようけんめい、

考えました。

どうしたら、赤ちゃんが安全に大きく成長できるか、  
赤ちゃんの幸せを、心から考えました。



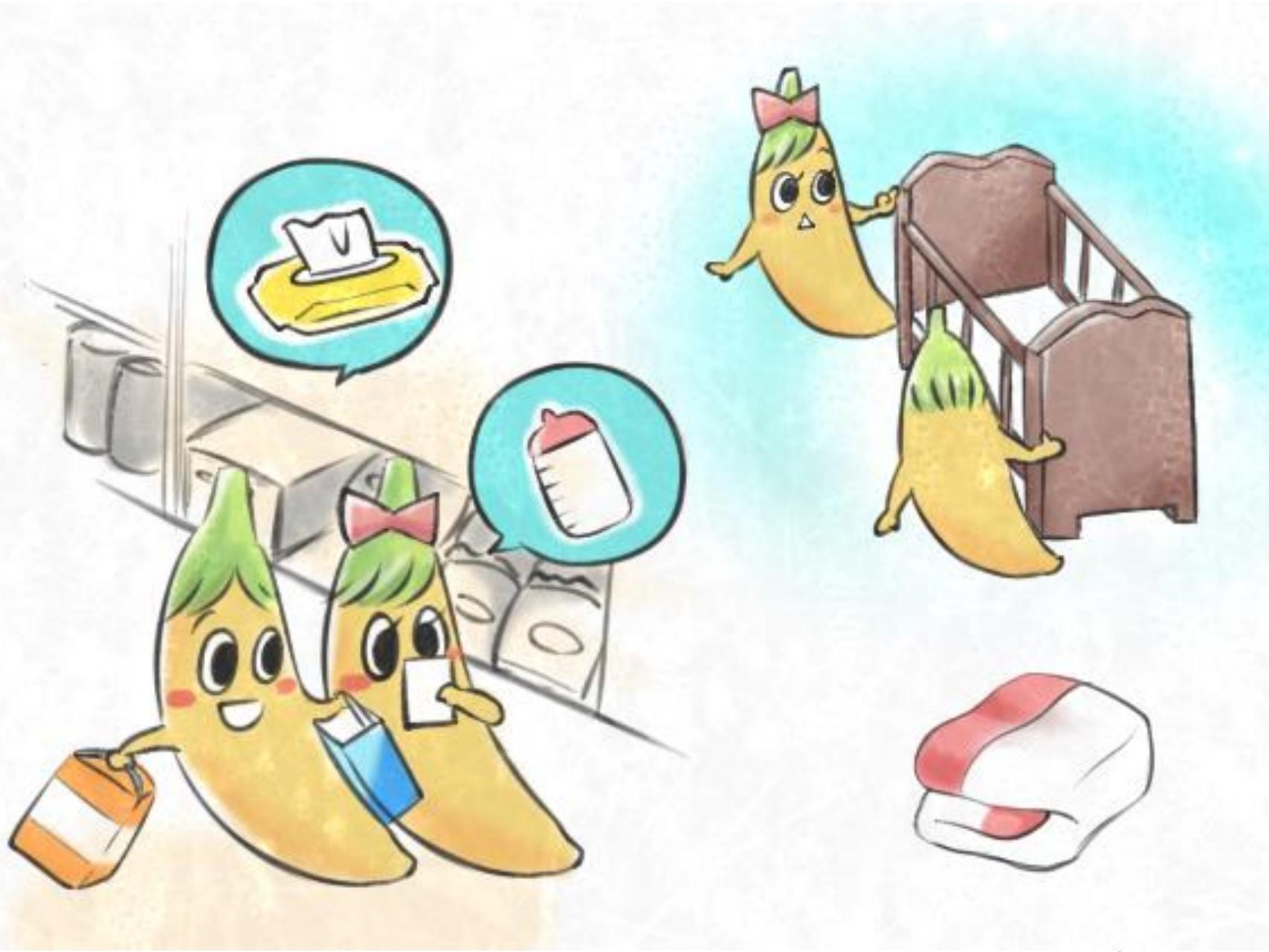
リンリンに相談されたお医者さんは、りんごの赤ちゃんを育てくれる家族を探しました。

そして、バナールとバナティに、お願いすることにしました。

赤ちゃんを待つていたバナールとバナティは、もちろん大喜び、「いっしょにけんめい、育てます」と約束しました。



りんごの赤ちゃんは、まるちゃんと名づけられました。  
バナールとバナティは、まるちゃんのために、  
ミルクや、オムツ、ベットやおふとん、  
まるちゃんを迎える準備で大忙しです。



そして、まるちゃんは、バナールとバナティに、  
育ててもうう日がやってきました。

どうか、どうか、幸せになつてね・・・



さあ、  
バナールとバナティ、まるちゃん  
三人の生活がはじまりました。

バナールとバナティは、  
はじめての子育てにいっしょくんめいです。

困つたときは、  
ふたり、力をあわせ、  
協力しあつて  
がんばりました・・



健やかに、穏やかに、たくさん思い出が溢れていきました。

まるちゃんは、  
バナールとバナティに心から愛され、  
すくすく成長していきました。  
春、夏、秋、冬、  
一年、二年、三年、四年、  
月日は流れます・・・



この幸せを毎日かみしめています。

まるちゃんと、バナールとバナティ、三人はいつも仲良し、

もちろん。

そして、バナールとバナティに感謝しながら、前に向かつて進んでいます。バナールとバナティもまた、リンリンを忘れたことはありません。

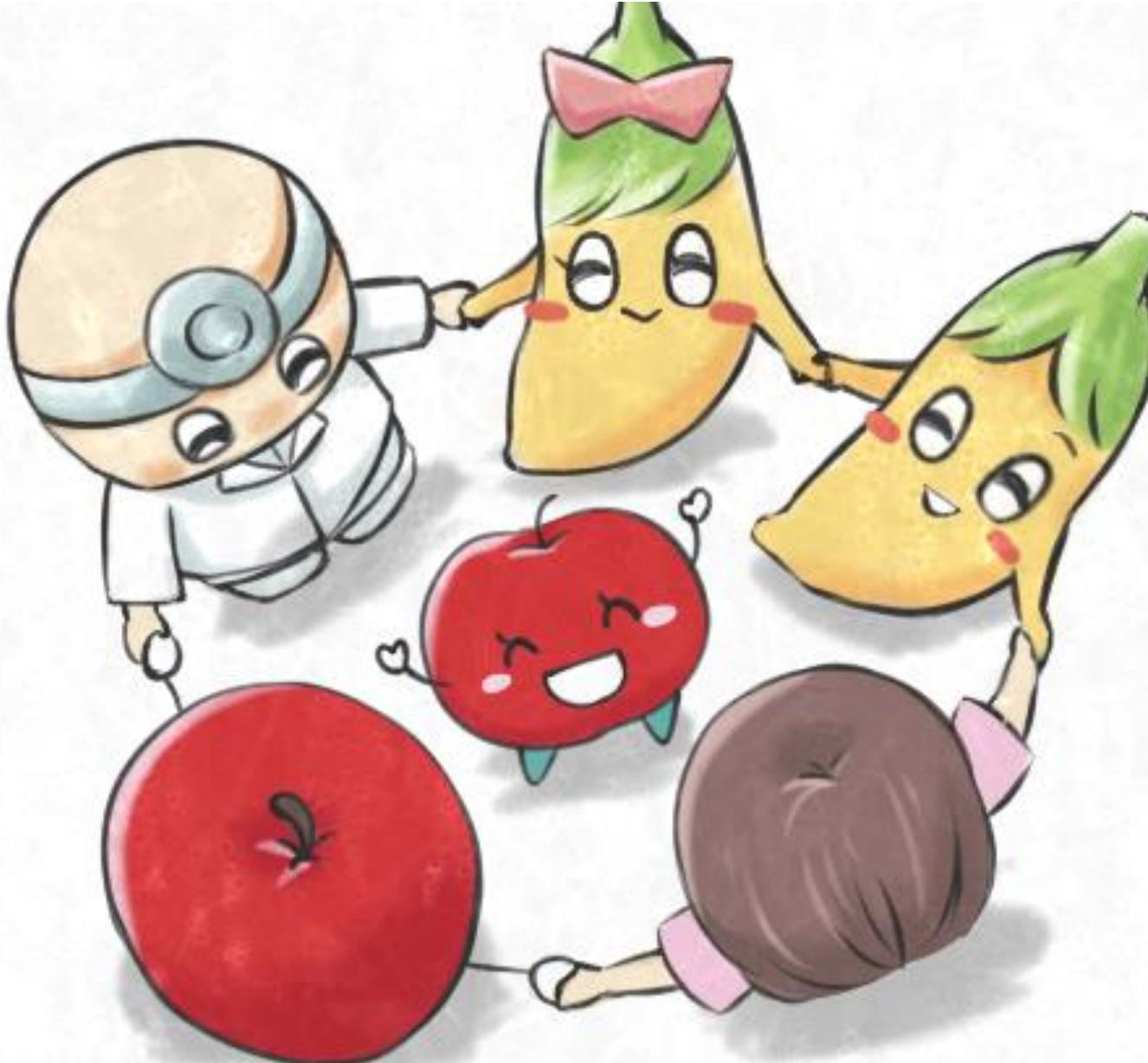
でも、まるちゃんを忘れたことはありません。いつもまるちゃんの幸せを心から願っています。



みんな、いつも「いつしょうけんめい」前に向かって歩いています。

まるちゃん、大きくなりますように、幸せになりますように、

みんなが笑顔でありますように。



みんなが、手をつなぎ、  
未来に向かって歩いていこうね。

## ～あとがき～

『まるちゃん、手をつなごう』は、一般的な絵本と言うよりは、

「真実告知」用の資料としての役割を目的としています。

内容は、「どうして自分がこの家庭で育ったのか？」【特別養子縁組の制度】の導入のお話しです。

自己肯定には「自分の出自を知る事」はとても重要で、また、「知る権利も」あります。

真実告知はその第一歩です。

真実告知は一度でなく、子どもの状況に合わせて、何段階かで行うことが望ましいと考え、

産まれて直ぐの乳児から幼児初期が対象として作成しました。

さらに、バナールとバナティと言う名前は、どちらが父親の名前か母親の名前かを、子どもや大人がそれぞれ想像してもらい、多様性を自然に捉え、受け入れて貰えたらとの思いがあります。

日常に読み聞かせを取り入れ、子どもが「特別養子縁組の概念」を極自然に受け入れられるよう、真実告知導入に活用して頂けたら幸いです。

# 参考例：オリジナル絵本の紹介

- ▶ 視点が楽しい、とても素敵なストーリー展開です。
- ▶ 幼少期のこどもは「物にも命があると思っている」を上手に取り入れています。
  
- ▶ 絵本を作成したご家族様に読み聞かせをして貰い、
- ▶ どうのように作成したか、説明して貰います。
- ▶ ぜひ参考にしてください！